

こころのケアナースの活動と G-P ネットワークの構築に向けた 取組【鹿児島県】

(実施主体) 始良・伊佐地域振興局 (始良保健所)	(基金事業メニュー) うつ医療体制強化事業
(実施期間) 平成 22 年度～	(実績額) 平成 23 年度 3,000 千円

【事業の背景・必要性・目的】

鹿児島県の自殺者数は平成 20 年から若干減少傾向にあるものの、全国に比べ自殺死亡率が高く、その中でも始良地域は高い傾向にある。

自殺の要因は複合的であり、自殺死亡率を減少させるためには、行政の施策だけではなく、保健・医療・福祉との連携や支援体制の構築を図る必要があり、特に医療機関の協力や支援体制は不可欠である。当保健所において、医療機関等に勤務する看護師等が、患者の訴えを傾聴し、不安やうつ状態等を把握し、適切な支援や関係者につなぐことができることを目指して、平成 22 年度から「こころのケアナース養成講座」を開催している。また、自殺の要因としてうつ病等の精神疾患が重要であるが、うつ病患者等が初診で、精神・神経科を受診する場合は少なく、精神症状以外に身体症状や不眠を訴え、一般診療科を受診したり、薬局で眠剤を購入することも多いと言われている。当保健所管内においても、一般医・薬剤師と精神科専門医等の連携強化・紹介システム(通称 G-P ネット)によるうつ病患者の早期発見・早期対応の体制整備を図るため、平成 24 年 2 月 4 日から「始良地域 G-P ネット事業紹介システム」をスタートした。

こころのケアナースと G-P ネットを有機的に連動することにより、より一層うつ病患者の早期発見・関与、及び地域との連携体制を構築することを目的に取り組んでいるところである。

【事業の内容】

1 こころのケアナース養成講座

内容	開催期間	年度	終了者 (人)	
・地域における自殺対策への取組の必要性とこころのケアナースの役割 ・医学的側面から 代表的な精神疾患の症状, 治療気分障害に関する基礎知識 ・こころのケアナースに必要なカウンセリング技術とその手法 ・こころのケアナース体験報告 ・自殺対策予防情報センターの取組	2日間 コース	22	一般診療科	58
		年	精神科	19
		度	計	77
		23	一般診療科	27
年	精神科	14		
度	計	41		

2 G-P ネット(一般医・薬剤師と精神科専門医等の連携強化・紹介システム)事業

① G-P ネット事業検討委員会を 5 回開催

メンバー：医師会員(精神科医 3 名、内科医 3 名、産業医 2 名) 薬剤師：2 名、行政：1 名

② 自殺対策学術講演会：

日時：平成 23 年 12 月 12 日(月)

内容：うつ病の早期発見・治療と医療連携の必要性

③ 始良地区 G-P ネット説明会

日時：平成 24 年 2 月 3 日（金）

【事業実施に当たっての運営体制等】

- 1 こころのケアナース養成講座については、保健所地域保健福祉課地域支援係が事務局となり、企画・運営し、こころのケアナースのフォロー等については、統括保健師が行った。
- 2 G-P ネット（一般医・薬剤師と精神科専門医等の連携強化・紹介システム）事業保健所管内の始良郡医師会に県が委託し、保健所が協働し企画・運営した。

【事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点】

1 こころのケアナースの活動状況

平成 23 年度こころのケアナース養成講座終了者 77 人に対し、当保健所で作成した相談窓口リストの送付に併せて、平成 23 年 4 月から 11 月までの 8 ヶ月間に、こころのケアナースとしての活動状況調査票を同封し、FAX で回答を得た。77 人中 23 人（29.8%）が事例対応をしていた。

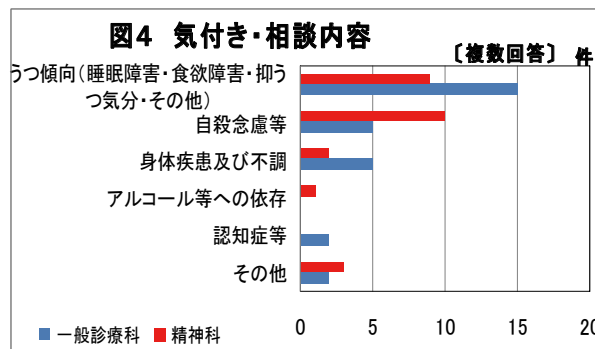
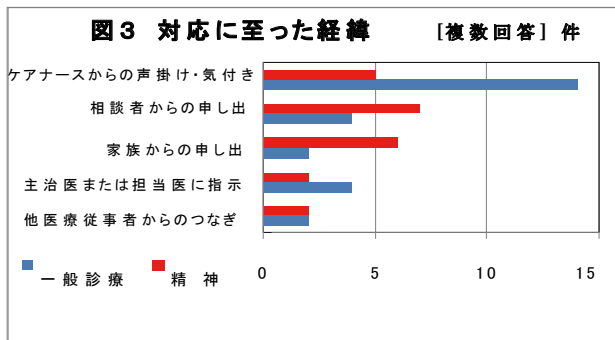
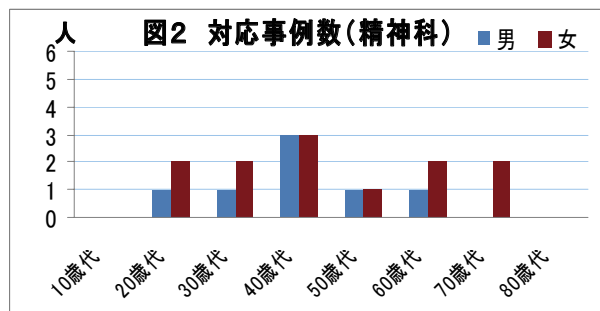
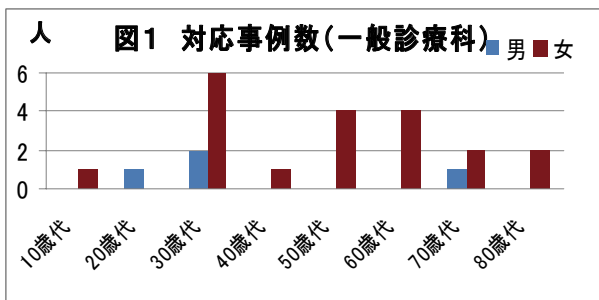
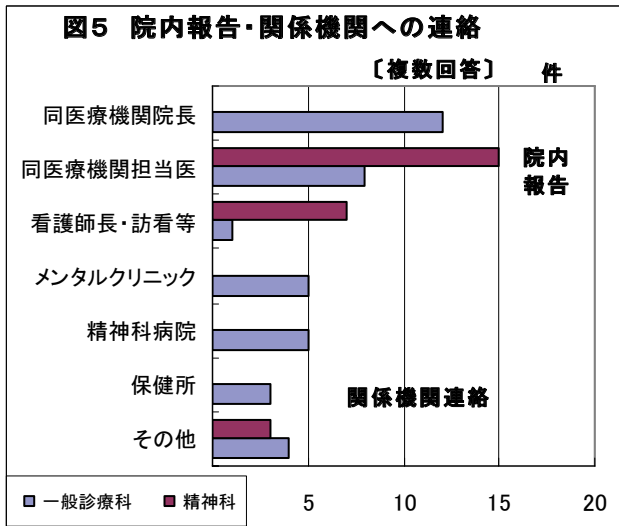


図5 院内報告・関係機関への連絡



2 こころのケアナースと G-P ネット・地域との連携イメージ図



（問合せ先） 始良・伊佐地域振興局（始良保健所）

TEL:0995-44-7952

E-mail: airaisa-chiiki-shien@pref.kagoshima.lg.jp